

その不便・不都合がかこたれつづけていたのであった。

その渴を癒やすのが、この池田利夫氏の「浜松中納言物語総索引」である。氏は、つとに氏の学ばれた大学の学部の卒業論文にこの物語をえらばれ、その「文学性」を研究の対象とされたのであるが、もちまへの誠実さから、本文の正確な理解は語句の意味の正確な受容からはじまることを自覚されて、全くの自家用としてこの総索引を独力編纂されたのであった。従って氏はその公刊のことなどは思いもよられず、後年、久松先生の御紹介によって私と御縁ができてからは、無造作に私に長い期間貸して下さったりさえしていた。その公刊をつよくおすすめになったのが久松先生である。

実は私もその公刊をひそかに切望したのであったが、その総索引に見合う宮下清計氏の刊行テキスト（丹鶴叢書本底本）が稀観本であるため、総索引だけの単独刊行が到底算盤に乗らないであろうと危惧しておすすめすることをためらっていたのであった。しかし久松先生の御熱意と御同情とは、池田氏を奮起させ武蔵野書院主を動かし、ここに立派に単行されるに至り、しかもまたきわめて偶然にも私の校註したこの物語が、本書刊行の直前に岩波書店の日本古典文学大系のうちで発刊されることになって、本書の底本たる宮下氏本の本文と私の校註本の本文との頁行数対照表が、本書に添えられることになったので、すべての憂えは完全に晴れたのであった。三百部限定出版の予約の現況も上乘と聞く。久松先生のお見通しの卓抜していらっしゃることに驚くと共に、この成功が所詮は、先生の御学徳・御人徳と池田氏の研鑽・誠意にのみ帰するものであることに今更ながら敬服せざるを得ないのである。

池田氏の誠実さと根気と熱意とは、今後はさらに、実践女子大学国文学科で中古の物語を専攻された、俊秀にして典雅なる令夫人の内助をも得られて、第二、第三の業績を次々と公にされることであろう。御健康と御多幸をいのって、このつたない序文を終える。

昭和三十九年五月五日

松 尾 聰

## 目 次

序	久松潜一	1
序	松尾聰	3
凡	例	9
総	索引	1
	本文異同対校表	239
	本文異同索引	259
	日本古典文学大系との頁行数対照表	279
	あとがき	299
	あとのあとがき	301

378④ 381⑪ 386①  
 えいぐわえいえう (栄華栄耀)  
 284⑧  
 えがま・し (得)  
 ーシウ 191④ 277⑥ ーシク 181④  
 えだ (枝)  
 (cf. 連理の一.)  
 132⑩ 316②  
 えびす (蝦夷)  
 (cf. 荒一.)  
 えらびのつかひ (選使)  
 104②  
 えん (縁)  
 101⑧ 121④ 283⑤⑩  
 えん (縁ーエニシー)  
 233② 284⑤ 329⑨ 337⑧  
 えん (艶)  
 243⑧  
 えん (宴)  
 (cf. 十五夜の一, 月の一.)  
 えん・す (宴為)  
 ーシ 141⑧ ーセ 142①  
 えん・なり (艶)  
 ーナル 245⑧ 326⑪  
 ——お——  
 おいしら・ふ (老痴)  
 ーへ 252③ 283⑥  
 おいて (於)  
 369②  
 おいびと (老人)  
 215②  
 おいらか・なり  
 ーニ 168③ 267⑧  
 おお・ゆ <おほゆノ誤刻カ, 他本「おほゆ」>  
 ーエ 179④  
 おが・む (拝)  
 ーミ 208⑧

おき (起)  
 [cf. 眺ーす, 後夜ーす.]  
 おきあが・る (起上)  
 ーリ 193④ 340⑭ 392⑥ ール 116④  
 おきあ・ふ (置敢)  
 ーへ 372⑨  
 おきい・づ (起出)  
 ーテ 244⑪  
 おきいでみざりい・づ (起出膝行出)  
 ーテ 248③  
 おき・つ (扱)  
 (cf. 思ひ一.)  
 ーテ 228⑩ 289② 296⑤  
 おきふし (起臥)  
 140⑭ 365⑥  
 おきふしおもひつづ・く (起臥思続)  
 ークル 343⑬  
 おきふしなが・む (起臥眺)  
 ーメ 234⑦  
 おきふしやす・し (起臥安)  
 ーク 107⑤  
 おきゐがち・なり (起居勝)  
 ーニ 386⑭  
 おく (奥)  
 121⑥ 160⑤ 176⑧ 211⑭ 214① 234⑭  
 252③ 270⑦ 309⑦  
 お・く (置)  
 (cf. 言ひ一, 疑ひ一, うち一, 恨み一, 送り一, 仰せられ一, 思ひ一, 書き一, 隠し一, 傍差し一, 語らひ一, 聞き一, 聞え一, 繰り一, 心一, 心置かれ歎く, 籠め一, さし一, 頼み一, 契り慰め語らひ一, 留め一, 残し一, 宣ひ一, 見一, 結び一, 教へ一.)  
 ーカ 184③ ーキ 104⑦ 123⑧ 145①  
 194⑨ 221⑦ 250⑪ 292⑤ ーク 100④  
 お・く (起)  
 (cf. うち臥し一.)  
 ーキ 232⑧

おくやま (奥山)  
 135① 226④ 234⑤ 237② 271① 274⑤  
 284② 288② 302④ 304② 311⑨ 320⑦  
 334②  
 おくらか・す (後)  
 ース 154⑫  
 おくり (送)  
 (cf. 見一.)  
 177⑤ 179② 184⑫ 393④  
 おくりお・く (送置)  
 ーキ 190③  
 おくりおこ・す (送遣)  
 ーセ 261⑦  
 おくりまうで・く (送詣来)  
 ークル 164⑪  
 おくりもの (贈物)  
 (cf. 御一.)  
 おくる (送)  
 (cf. 吹き一, 見一.)  
 ール 284⑨ 290①  
 おくる (贈)  
 ーラ 169⑩ ーリ 184⑬  
 おくる (後)  
 (cf. 立ち後れ過す, 立ち一.)  
 ーレ 132③ 203⑩ 214⑦ 273② 286⑫  
 288②⑥ 294⑭ 304① 334④ 357⑨ 385⑧  
 おくれさきだ・つ (後先立)  
 ーツ 290⑪  
 おこ・す (起)  
 (cf. うち思し一, 思ひ一.)  
 ーシ 144② ース 143⑪ ーセ 142⑭  
 おこ・す (遣)  
 (cf. 送り一, 見一.)  
 ーセ 264⑥  
 おこたり (愈)  
 (cf. 御一.)  
 127⑧ 151⑪ 181① 193⑧ 198⑭ 242⑦  
 ⑧ 318⑧ 366⑥

おこた・る (愈)  
 (cf. 思ひ一.)  
 ーラ 260① 278⑧ ーリ 118⑦ 337⑪  
 373⑩  
 おこなひ (行)  
 (cf. 御一.)  
 128⑧ 140④ 205④ 206② 230⑪ 266⑪  
 278③ 289⑤ 348⑥  
 おこなひあか・す (行明)  
 ーシ 245⑥  
 おこなひいの・る (行祈)  
 ーリ 394⑨  
 おこなひいの (行入)  
 ーリ 245④  
 おこなひくら・す (行眷)  
 ーシ 218⑬  
 おこなひつと・む (行動)  
 ーメ 218⑤  
 おこな・ふ (行)  
 (cf. 祈り一, うち一, 思ひ澄まし一, 読み一.)  
 ーハ 255⑪ 392⑨ ーヒ 134④ 204⑬  
 217⑨ 225① 245⑧  
 おこ・る (起)  
 ーラ 339⑨ 342⑧ ーリ 241③  
 おさ・ふ (押)  
 ーへ 176⑪  
 おしあ・く (押開)  
 ーケ 136⑨ 187④ 243⑤  
 おしあ・ぐ (押上)  
 ーゲ 177⑭  
 おしあ・つ (押当)  
 ーテ 298① 377⑬  
 おしあて (推当)  
 367⑥  
 おしいだ・す (押出)  
 ーシ 187⑤  
 おしい・づ (押出)